

# 林大の風

第39号 高知県立林業大学校

## 架線知識開発研修

専攻課程林業技術コースでは、1月から2月にかけて、架線知識開発を目的とした講義を行いました。講師は、高知県立森林技術センターの山崎森林経営課長です。



林業架線作業は急傾斜地の多い高知県では多くの現場で行われ、研修生が今後の林業に携わる上で必須の技術と言えます。



今回の実習では、資料や現地などで撮影した動画などを紹介した

大きなながら、実習棟内にある架線シミュレーターで、様々な架線の索張り方法・運転技術を学びます。

初めに、あらかじめ架設していたH型架線の撤去作業を行い、主索・作業索・控索等をどのような順番で撤去する必要があるのかを教えてくださいました。その後、撤去とは逆の手順で架設を行いました。また、



エンドレスタイラー式・コレクター式・フォーリングブロック式などの架設も行いました。架設後は、走行・集材の操作方法を教えてくださいいただき、一人ずつ運転実習

をしました。併せて、エンドレスタイラー式では、主索の垂下比（主索の緊張度）が変わることと支柱やワイヤロープにかかる荷重が変わることの検証も行い、林業架線作業主任者講習で学んだ内容を思い出す場面もありました。

後半は、主索を用いない架設方法を学びました。初めは、ハイリッド式の様々なパターンを学びました。具体的には、道端の短距離集材で活用される引寄索（ホールライン）と引戻索（ホールバックライン）を使った2線式の方法です。その後は、スイングヤーダでもよく使われるランニングスカイライン式やストラックライン式を学びました。また、カムラーと呼ばれる器具を作業索に取り付けることで、集材木の横取り時に作業索の接触による残存木の損傷を軽減させる方法も学びました。

全国的に見ても先進的な取り組みを行ってきた高知の林業架線技術を、本校研修生が継承し、牽引していくことを願っています。



## 令和5年度同窓会

令和5年度同窓会役員会を、11月18日に開催しました。

今回で第8期の卒業生が加わり、役員会員も16名と大所帯になり、名前と顔を覚えるのが少し大変になりました。

ここからは、会長と同窓会報に掲載した卒業生の近況報告を、一部抜粋してお伝えいたします。

同窓会会長 川崎 倫央  
(専攻課程平成30年度卒)



同窓会役員会長に就任して3回目の冬を迎えています。新型コロナウイルス感染症

法上の位置づけが5類に変更されたので、当組合でも研修や懇親会等徐々に緩和をしています。

11月には茨城の林業機械展、島根の森林組合への研修旅行もありました。各地域のイベントも再開し、様々な祭りやよさこいなどで少しずつ高知県全体の活気が戻ってきているように感じます。

さて、肝心の林業はというと、ウッドショック以降、国内材を使用していくという意識は高まっているものの、木材価格はピークを過ぎてから下がり、その後落ち着いているように思います。

今後は、ドローン（空撮や資材運搬）や高性能林業機械（フェラーバンチャ、ハーベスタなど）の多機能作業）等で省力化し、より安全で効率的に森林の保全の手助けができればと考えています。毎年気候が変わり、過酷な環境下での作業も多いと思いますが、くれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。

## 近況報告

岡村 連成（専攻課程令和3年度卒）



香美森林組合に就職した岡村です。造林作業を始めてから一年半が経ちました。あつという間に月日が経っている気がしますが、最初の1年は何を

どうしたらいいかわからず、ただがむしやりに作業をしていました。2年目になると頭の中で考えることが出来だしました。それでも失敗はいっぱいあります。その話を現場の上司にすると、「失敗はいっぱいした方が良い、そしたら次はこんなことしてみよう、あんなことしてみよう、その中から作業効率の良いものを使えば良い」(事故しない安全な失敗)この言葉を聞いて納得しました。今は作業効率を上げるために考えて作業するようにしています。失敗も多々あります。その度に上司に聞くようにしています。正解は人それぞれでいろんな人の話を聞いたりするのも勉強になります。仕事の話はこれぐらいで。(笑)

社会人になって一年半、学生の頃より自由が増えました。今はゴルフに夢中です。ゴルフ以外にもいろんな所へ先輩に連れて行ってもらったりしています。すごく楽しいです。けれども、学生のうちにしかできないこともあると思うので、学生の方は、しっかり楽しんで下さい！